

地域での連携によりイノベーションを起こした事例

神奈川県鎌倉市の村式株式会社（従業員 16 名、資本金 1,000 万円）は、ウェブサイトの企画・構築やマーケティング支援のためのシステム開発やコンサルテーション 8 等のサービスを主力事業としている。中でも e コマース 9 やクラウドファンディング 10 のプラットフォーム構築を得意としており、大手広告代理店と協業運営する e コマースサイトや、鎌倉を盛り上げるためのクラウドファンディングサイトを運営している。

住吉ユウ社長は、2006 年に大手印刷会社の同期入社エンジニア 5 人で東京都内に創業したが、2 年後には鎌倉に移転している。移転当時、鎌倉には IT の産業集積はわずかであり、経済合理性や効率性の観点からいえば都内のほうが圧倒的に立地は良かったが、歴史や地域の雰囲気惹きつけられ、協働する顧客や社員との関係性を重視して、最終的には直感を信じて移転を決断した。

鎌倉を盛り上げたいとの思いがあった住吉社長は、鎌倉に本社をおく IT 企業の経営者らとカマコンバレー有限責任事業組合を設立し、鎌倉を盛り上げるための活動を行っている。月に一度開催される定例ミーティングでは、NPO 法人等の団体や商店主、学生など、鎌倉をよりよくするための活動をしている人の話を聞き、100 人程度の参加者が課題を解決するためのブレインストーミングをすることで、多種多様なアイデアが生み出されるとともに、参加者はその活動や地域の課題を「自分ゴト」として捉え、各自が自発的に支援をするようになっていく。この取組によって培われる地域内の信頼関係や、思いのある人を応援しようとする関係性が広がっていくことで、参加者同士の仕事にも発展している。また、カマコンバレーでは個別のプロジェクトも進められており、鎌倉をよりよくするために活動する人たちのためのクラウドファンディングサイト「iikuni」、建長寺で禅の体験とハッカソン 11 を組み合わせて成果を目指す「ZenHack」等が企画されている。さらに、地域の経営者が 10 人程度集まって詳細な事業計画を公開し合う会議を開くことで、互いに真剣なアドバイスや厳しい指摘をする関係性が生まれ、協働への発展や、経営の決断のスピードが格段に速まる成果も生じている。

住吉社長は、「カマコンバレーでは参加企業同士が競合にもなり得るが、互いに仲が良いので、地域全体で共生して成果を出すという価値観が共有できている。そのため、互いにノウハウやビジョン、スキルを共有し合える関係性ができており、それがイノベーションの源泉となっている。」と話している。

「コンサルテーション」とは、異なる専門性をもつ複数の者が、援助対象である問題状況について検討し、よりよい援助の在り方について話し合うプロセスをいう。

「e コマース」とはインターネット等のネットワークを利用して、契約や決済等を行う取引形態をいう。

「クラウドファンディング」とは、インターネットを介して不特定多数の人々から資金調達をすることをいう。詳細は中小企業白書（2014 年版）第 3 部第 5 章を参照。

「ハッカソン」とは、ソフトウェア開発者が、一定期間集中的にプログラムの開発やサービスの考案等の共同作業を行い、その技能やアイデアを競う催しをいう。



カマコンバレーの定例ミーティングの様子 (2014年11月)